

東芝クライアントソリューション(株)は、30余年にわたるノートPC(パソコン)事業で蓄積した技術・知見・ノウハウをベースに、成長が見込まれるIoT(Internet of Things)分野でも新たな製品・サービス展開に取り組み、お客様の課題解決に向けた最適なソリューションを提供しています。

その一例として、損害保険ジャパン日本興亜(株)が2018年1月から提供を開始した個人向け自動車保険の特約用に、安全運転支援機能を備えたドライブレコーダーを供給しています。当社の画像認識技術やセンサー技術を活用するとともに、マイクロソフト社の統合クラウドサービス Azure 上で各種データ処理を行うことで、“同一車線での車間アラート機能”や“衝撃検知機能”など、安定かつ高度な安全運転支援機能を実現しました。また、インターネット接続機器の増大による通信への負荷やコスト増加、少子高齢化に起因した労働生産力低下などの課題に対応するため、2017年9月にモバイルエッジコンピューティングデバイス“DE100”をリリースしました。DE100は、当社の高密度実装技術などにより、高い処理性能と、拡張性、堅牢(けんろう)性を実現したコンパクトなデバイスで、例えば、別売の眼鏡型ウェアラブルデバイスと組み合わせて通話や画像の送受信による遠隔支援を行うことで、保守現場などでのスムーズな対応が可能になります。ほかにも、オフィスや工場での活用など、DE100は限りない発展性を秘めています。

今後も、当社の技術を生かし、お客様の真の課題を解決していきます。

取締役 技術・品質・事業開発 所管 柏木 和彦

■ モバイルエッジコンピューティングデバイス DE100

多くのモノがインターネットにつながるIoT時代では、通信インフラへの負荷増大やリアルタイム処理性能の低下などが問題となっており、これらを解決するための手段をモバイルエッジコンピューティングと命名し、具現化するデバイスとしてDE100をリリースした。高い拡張性を有するDE100に眼鏡型ウェアラブルデバイスを接続すれば、作業者の眼鏡に装着されたカメラと無線通信を組み合わせることで、遠隔から熟練者が現場の作業を見ながら的確な指導を行うソリューションを提供できる。これにより、少子高齢化の中での技術の継承という課題にも取り組めるようになる。



モバイルエッジコンピューティングデバイス DE100
DE100 mobile edge computing device (MECD)

■ 損害保険ジャパン日本興亜(株)ドライブレコーダー

損害保険ジャパン日本興亜(株)(以下、損保ジャパン日本興亜と略記)が、2018年1月からサービスを開始した個人向け自動車保険の特約用に、安全運転支援機能を備えたドライブレコーダーを供給している。

当社は、2015年3月から損保ジャパン日本興亜へドライブレコーダーの供給・保守・メンテナンスサービスを継続して行っている。今回のサービスも、通信機能を備えた、GPS(全球測位システム)及び加速度センサー付きのドライブレコーダー機器の提供に加え、安定かつ高度な安全運転支援機能を提供するため米国のマイクロソフト社との協業で統合クラウドサービス上での各種データ処理を実現している。更にカメラ画像処理技術で“同一車線での車間アラート機能”や“衝撃検知機能”をサポートすることで、損保ジャパン日本興亜のサービスに、より一層貢献できる。



損保ジャパン日本興亜のドライブレコーダー
Drive recorder for Sompo Japan Nipponkoa Insurance Inc.